

# 皇后陛下 三月廿七日東京女子高等 師範學校に行啓遊ばさる

堀 藏 七

## 一、行啓を仰ぎて

皇后陛下には、三月二十七日東京女子高等師範學校に行啓あらせられました。三月十八日に行啓遊  
ばされる御豫定が二十二日に御延期となり、更に二十七日に御延期になつたのであります。漏れ承る  
所によると、

皇后陛下には三月七日より御風邪の氣味にわたらせられましたので、三月二十四日より二十六日ま  
での帝都復興記念祭の行はれました翌二十七日に特に行啓遊ばされたのであります。

三月二十七日午前十時、東京女子高等師範學校正玄關前に整列せる來賓職員生徒兒童幼兒三千人、  
溢れて正門外お茶の水の道路にまで整列して御迎へ申上げてゐる間を君が代の奏樂と共に

陛下の自動車は轍の音もゆるやかに正門にも入りになりました。この時車上の陛下には正門入口の右側に静肅に並び居る幼稚園児のあどけなさをいと、にこやかにみそなはせられたるやうに拜せられました。御車はやがて玄關につき 陛下はかねて設けの御座所に入御遊ばされました。着御間もなく學校長、文部大臣、次官、局長、その他勅任官及び同待遇以上の教授に單獨拜謁を賜はり、直に玉歩を長き廊下に運ばせられて講堂に臨御あらせられ、午前十時二十分より開始せられた講堂演習を御熱心に御聽遊ばされたのであります。

講堂演習は先づ一同の校歌「みがかづば」に始まり、小學校児童の演習より女學校生徒、更に本校生徒の演習まで正一時間と二十分。その演習は次の如くござりました。

## 一、講 堂 演 習

校 歌（昭憲皇太后御下賜御歌）奉唱

御 歌

同

みかゝすは玉もかゝみもなにかせん

學ひの道もかくこそ有けれ

附屬小學校

讀 方

朗讀「ミヨチャン」

唱 歌

乙姫さん

歌詞

龍宮の〜乙姫さんはトントンカラリン

トンカラリン〜〜と機をありました

黄金のたすきを脊中に結んでトントンカラリン

トンカラリン〜〜と機をありました

浦島太郎もトントンカラリン黄金のたすきで

トンカラリン〜〜と機をありました

千年おつてもトントンカラリン萬年ちつても

トンカラリン〜〜と機をありました

第一部尋常科 佐久間菊栄  
第二部尋常科 十五名

綏 方

朗讀「老婆さまと小鳥」(自作文)

第三部 幼常科 佐藤伸彦

地 理

郷土誌「山の手、下町」

第四部 幼常科 木下瀬文子

水 滑

唱 歌

第五部 幼常科 二十一名

歌 詞

一 嬉し膚寒き北の風の

夜すがら吹きて今朝は川の面

見よや 水とぢぬ

二 嬉し空は晴れて朝日高く

川の鏡の面はかゞやき

まつかあそぶ子等を

三 嬉し冬を愛づるわかき友よ

今日はひねもす川のほとりに

汝とあそび暮さん

四 嬉し心かるく足もかるく

走る我等は空を飛び交ふ

ともの羽や得たる

五 嬉し骨は鳴りて肉は躍り

わかき力の湧くを覺えて

樂しこほりすべり

朗讀 方

朗讀「田園の自然」

第二學年兒童科

馬場靜子

附屬高等女學校

實科第二學年生徒 雨宮元子

果物家

事

本科第二學年生徒 村上慶子

國語

朗讀「桃」

音 樂

賀頌

歌詞

本科第四學年菊組生徒 約五十名

一 慶ありて 東の空

見よ この日の かぐやく

いみじき光を

二 雄雄しくいはす 日嗣の皇子

げに人皆 とこしへ

たのまん御柱

三 ならびて在す 天つ少女

そのみなさけ 優しく

みけしき氣高し

四 萬づ世春に 咲きつぐ花

さくらの花 いざいざ

挿して祝はん

修 身

國際聯盟

英 語

暗 詠 「ヴェニスの商人」

第四幕第一場 裁判の場面の一部分

第六臨時教員養成所

歴 史

明治維新の大精神

本 校

國 語

曲亭馬琴と支那小説

家 事

本科第五學年生徒 長野芳子  
専攻科英語部 第二學年生徒 佐村百合子

文科第三學年生徒 渡山口ゑみ  
第三學年生徒 渡山口ゑみ

文科第三學年生徒 渡山口ゑみ  
第三學年生徒 渡山口ゑみ

家事科第四學年生徒 島根阿佐  
第三學年生徒 渡山口ゑみ

婦人と消費の進歩

數學

非ユークリット幾何學の起源

教育

教育上より見たる兒童

理科第四學年生徒 牧野久仁  
文科第四學年生徒 保田美代子

以上

三、光榮の數々

東京女子高等師範學校は 昭憲皇太后の行啓を十一回 皇太后陛下の行啓を三回仰ぎ、今まで  
皇后陛下の初の行啓の光榮に浴したのであります。五十年前明治八年十一月二十九日、東京女子師  
範學校開校の日

皇后陛下（昭憲皇太后 行啓遊ばされ、令旨を賜はりました。

女子教育ノ根柢ヲ培益センタメ去年此校ヲ設置有ラントスルヲ聞キ嘉尙ニ堪ヘス 今經營既ニ成  
リ爰ニ開業ノ典ヲ舉グ 庶幾クハ自今此校ノ旺盛ニ赴キ遂ニ女教ノ美果ヲシテ全國ニ蕃結スルヲ

觀ンコトヲ

更に明治九年六月附屬幼稚園が設立せられ、本邦幼稚園の嚆矢となつたのであります。その翌十一年十一月二十六日

皇太后陛下（英照皇太后） 皇后陛下（昭憲皇太后）附屬幼稚園に行啓遊ばされました。その當時の記録には次のやうにあります。

文部大輔本校主任以下校前に奉迎、御便殿に御着、文部大輔以下拜謁、次に本校主任御先導にて開誘室順次御通覽の後遊戯室に進御、文部大輔、幼稚園の主旨を陳述し、幼稚園規則、寫眞、園児の製作物を上る、此時御令旨あり。本校主任答辭を上る。午後遊戯室に進御、御玉顔殊に麗はしく、幼兒の嬉戯する狀を見そなはし給ふ。此日校長以下校員に物を賜ひ、幼兒には菓子折一個宛下し賜はる。

### 皇太皇后陛下より賜りたる令旨

曩に此園の設けあるを聞き今其さまを觀るに幼稚の訓育稍々宜に適ひたることを知り尙倍訓育の方を竭し幼稚をして身を保ち智を増さしめんことを望む

### 皇后陛下より賜りたる令旨

人の身を保ち智を増さんは稚き時の育方にあれは此園の業もいと難あるべきと今稚き者共の状を觀るに其身の健にして其智の開け行かん効までまのあたりに知られたるは誠に喜はしき事なり 尚務めて此園の育方を普く敷きなは人々をして皆洪福あらしめんこと誰か疑ふへき。

大正十四年十一月二十九日

皇后陛下東京女子高等師範學校開校五十年記念式に臨御あらせられし時賜りたる令旨  
茲に親しく開校五十年記念式を舉くるの盛事を見る欣悦何そ勝へむ

昭憲皇太后曩に開業の式に臨ませられ深く當時の計劃を佳尚し女子教育を發展せしむへきことを親諭せらる 惟ふに今日の興隆由て來る所已に尙し 従事の人常に志を此に置き又能く時世の進運に鑑みて懈ることなく業を修むる者亦意を潜めて訓育の國家人心と須くも離るへからざる所以を究めは庶幾は

遺範に副ふことあらむ 各自其れ之れを黽めよ

#### 四、有難き御言葉

昭和五年三月二十七日 皇后陛下には午後二時四十分還啓の前、特に吉岡校長を御召しになり有難

き御言葉を賜はりました。

本日此校ニ臨ミ詳ニ課業ノ實際ヲ見學校長ヲ始メ職員等ガ熱心ニ教導ニ當リ生徒等モ亦眞率ニ勉勵シツツアルハ満足ニ堪ヘズ。此校ハ創設以來既ニ五十餘年ヲ經成績愈々揚ガリ國家社會ニ貢獻セシ所洵ニ多シ此レ實ニ昭憲皇太后並皇太后陛下ノ御懿旨ニ副フ所以タルヲ信ズ。

今ヤ女子教育ハ益々振興ノ必要ヲ感ゼシムルモノアリ。諸子宜シク此校ノ本旨タル師範教育ガ眞ニ女子教育ノ源泉ヲ爲スヲ思ヒ一層努力ヲ加ヘ以テ時世ノ進運ニ伴ハソコトヲ期スベシ。

## 五、幼稚園御巡覽

皇后陛下には三月二十七日東京女子高等師範學校に行啓あらせられ、先づ講堂演習を台覧あらせられて後、午前十一時三十分附屬幼稚園を御巡覽あらせられたのであります。講堂より長いバラツク平家建の廊下を幼稚園まで玉歩をも運び遊ばされたのであります。そして幼稚園入口で外遊びの幼兒六十人が御迎申上げると、陛下はわざく御立どまりになつて幼兒達の敬禮に對し御會釋を賜つたのであります。丁度朝からの曇が晴れて麗な春の日が幼兒達を包み嬉々として、陛下を御迎申上げてゐる有様をみそなはしながら幼稚園に御入り遊ばされたのであります。

第一の室では幼兒達が箱の家をつくつて居ります。お菓子箱や石鹼箱などいろいろの空箱を利用して、窓を開け、セルロイドの硝子窓をつけ、椅子や卓子を厚紙でこしらへて備付ける幼兒もあれば、またいろいろの玩具、小さな玩具の豆自動車、小さな國旗、紙人形などを畫用紙で製作して箱の玩具店に飾付けてゐるものもあります。この幼兒達は満六歳で、この四月より小學校に入學するものであります。只今空箱を利用していろいろの家をこしらへてゐるのです」と、説明申上げますと、陛下は畏れ多い程幼兒達の傍に近く進み遊ばされて、一々幼兒のこしらへてゐる箱の家を御のぞきあらせられます。そして

「これは幼兒が工夫するのですか、それとも教へますか」

と御下問になつたのであります。畏れ多い位 陛下には幼兒の教育に御心を注がせられますやうに拜察いたしますので、教へることもありますが、また幼兒に工夫させることも多い旨を御答へ申上げますと

陛下には「中々お上手ですね」と仰せられ、或る幼兒の箱の家を御自ら御手に持上げられて、家の中の様子、粗末な紙の椅子や卓子などが置いてあるのを御覽遊ばされて御微笑を御漏し遊ばされたのであります。

いろいろの箱で出来た家が並べられて町並となつてゐるものにつき、「これが箱の家でこしらへた町並でございます」と申上げますと、陛下には「成程電車がありますね、自動車もありますね」と竹屋女官長と御笑になり暫し玉歩をとどめさせられて箱の家で出来た町を御覽あらせられたのであります。

やがて、陛下は第二の室に御入りになります。「こゝに居ります幼兒達も満六歳であります。眞中の机では粘土製作をいたして居りますし、黒板では自由に繪をかいて居ります」と申上げますと、

陛下は先づ玉歩を黒板の方に運ばせられ、一生懸命汽車を描ける幼兒の後方より御覽になります。幼兒はそれとも知らず、機關車の煙突を描いてその後方にある水蒸氣のたまるタンクを黃色のチョークで塗つて居ります。實は私などが見ても何になるのかよく分らぬ位でありますと

陛下が特に御注視遊ばされてゐる御様子に拜せられましたから、私は幼兒に對して「何を描いてゐますか」と尋ねて見ました。すると幼兒は「機關車」と答へつゝ尙ほ一生懸命塗つて居ります。

陛下には幼兒の「機關車」といひつつ、描きつゞけてゐるのを御覽遊ばされ

「そうですか 機關車ですか」と、御笑ひ遊ばされたのであります。この機關車を描いてゐる男兒に隣つて二人の女兒が西洋館を描いて居ります。西洋館は芝生の上に簡単に出来上がり窓が一つついて、入口ともいふべき所も黃色に塗られてあります、幼兒はその入口の眞中に入念に點を打つて居ります。

その點の描き方に 陛下は御目をとめられましたから、私は幼兒に向つて「それは何ですか、ドアですか」と念を押しますと、幼兒は「そう」と答へつゝ尙點を仕上げてゐます。ドアのハンドルであります。細かな點を見ぬかさず描く女兒の觀察を 陛下はめでさせられましたものか、尙ほも御覽になつてゐますが豫定の時間もありますこと、つい失禮にも粘土製作の方へ御案内申上げたのであります。

幼兒が小さな手で粘土をとつて丸めて林檎となし、バナヽをつくり、自動車とし、また馬の足となし象となしてゐる幼兒の製作をいと御興味ふかく御覽遊ばされ、御手に粘土を御取上げになりましたことは誠に有難き極であります。その中一幼兒が太い棒を粘土でつくり、その上に稍々細い粘土の棒を枝となるやうに二つくりつけ、更に一つ團子にした粘土をくつつけたのでありますが、土臺にしてゐる粘土が倒れ想になつて困つてゐます。この時 陛下はこの幼兒が苦心して粘土が倒れるのを起してゐるのを御覽遊ばされますやうに拜せられましたから私は幼兒に「それは何になるの」と尋ましたすると幼兒は「花咲翁」といつて土臺の粘土を起して居ります。幼兒の花咲翁の聲に

陛下は「アさう花咲翁になるの」と朗らかな御聲で御笑遊ばされ、室内は一齊に輝き渡る有様であります。成程この幼兒は花咲翁を造る豫定らしいのであります。土臺の太い粘土の棒が枯木となるのでありませう。その枯木の枝が一本に分れ一方の枝に新につけた團子のやうなものが花咲翁になるので

ありませう。宮内官の方々も女官の方も皆花咲翁といふ答には御笑にならぬ方がない位であります。しかし幼兒は一生懸命であります。この幼兒が無邪氣に眞面目に熱心に製作してゐる様に

陛下の玉歩を止めさせられて暫し御覽遊ばされました光榮さ。

陛下は更に右側の黒板畫を御覽遊ばされたのであります。こゝでは二人の男兒が廣い一枚續きに合作をしてゐます。一人は一生懸命にタンクを描いてゐますし、他の一人は三機の飛行機を描き終つてその下の方一面に綠のチョークで縦にぬつて居ります。私は陛下が御覽遊ばされるやうに拜しましたからまた幼兒に「それは何か」と尋ねて見ますと「野原」といつて尙ほ書き續けてゐます。その上の所に赤く塗つたものがありますから、また「これは何ですか」と幼兒に尋ねますと幼兒は「飛行機が爆發したの」といつてすましてゐます。陛下はこれを御覽あらせられ、

「飛行機が爆發したのですか、そこにタンクがありますね」と、御微笑を御漏になつたのであります。かくて第一室の御巡覽を終らせられ、出口に玉歩を御運びになりましたから、「この室は保育室であります、向ふの戸棚がめい／＼簞笥と名づけ、幼兒一人／＼が使用する物を始末する簞笥であります、またこの戸棚は幼兒のお辨當を入れて置くものでございます。お辨當はこのやうな小さなバスケットに入れまして幼兒各自が毎日持つて來るのであります」と説明申上げますと、陛下には特に幼兒のお辨

當入の小さなバスケットを御覽遊ばされまして御微笑を御漏しになつたやうに拜察いたしました。

第三の室では幼兒が八百屋遊びの仕度をいたして居ります。黒板には幼兒の繪で、土堤の櫻が満開の春の陽氣が漲つてゐます。その前で幼兒の一團が畫用紙で果物をつくつて居りますので 陛下はその机に御立寄になり親しく幼兒の製作を御覽になります。厚紙に林檎を描いて切つてゐるものがありバナヽを描いてゐるものがあります。このバナヽを 陛下は御覽遊ばされ、竹屋女官長に「いろ／＼のものが出来るのですね」と仰せられました。「こゝで出来ましたものを向ふのヤオヤ店に陳列して商ひごつこが始められるのであります。その机のところでは幼兒がかごをこしらへて居ります。まだその隣の机ではお金をこしらへて居ります。そのお金で果物などが買求められるのであります」と説明申上げますと 陛下は御微笑遊ばされ、かごをこしらへてゐる幼兒の鍊の運を特に御覽遊ばされます。幼兒が小さな手で鍊を持ち大きな厚い茶色のボール紙を切ぬく有様をいと御興味ふかく思召されるやうに拜察いたされました。そのかごをこしらへてゐる幼兒と向合つた幼兒達が粘土をまるめて蜜柑をこしらへ、いちごをこしらへてゐますと 陛下はわざ／＼そこに御立寄遊ばされ、幼兒のこしらへた粘土を御手に御取上げ遊ばされて御覽になつたのであります。丸くなつた粘土にぼつ／＼小孔をあけていちごをこしらへてゐるのを御興味ふかく御思召されてかと拜せられます。

次にお札や銅貨、銀貨を厚紙でこしらへてゐる所に、玉歩を御運び遊ばされ、そのお金を御手にて取り遊ばされ、

「これが十センですか」と御笑ひ遊ばされたのであります。「幼兒達がこのお金でヤオヤに出かけまして、自分／＼のすきな物を買ひ求めます。ヤオヤはヤホヤと書くべきであります」と、説明申上げますと發音通りに書くのであります。この店は町通りの一軒でヤオヤ店であります」と、説明申上げますと、陛下は御笑遊ばされ、黒板に描いてある幼兒の繪（それは町通りになつて居ります）を御覽遊ばされ、更にヤオヤ店をいと御熱心に御覽あらせられるやうに拜せられたのであります。ヤオヤ店でも蜜柑を並べ、更にきんかんを小さな網の袋に一つ／＼幼兒が入れてゐるのをことの外よく御覽あらせられたのは畏れ多いことであります。陛下にはきんかんを網の袋に入れて賣ることが御不思議に御思召されたものでありますか？「これはきんかんでござります。幼兒が粘土でこしらへましたものに黄褐色のエナメルを塗りましたものであります。この紙皿にのつて居りますのはさうり午勞でござります。茶色のボール紙を細長く切り、さうり午勞になぞらへたのでござります。さうり午勞はヤオヤでよく賣つて居りますので幼兒が眞似をしたものであります」と、説明申上げますと、陛下には御興味を以て御覽あらせられたやうに拜察せられたのであります。

第四の室は遊戯室であります。三十人の幼児が圓い輪をつくり、三十人は二列に整列して、陛下を御迎へ申上げピアノの合図で兩方共にあどけない風で最敬禮をいたしますと、陛下にはことの外御微笑遊ばされたやうに拜せられます。幼児の一隊は直に小さい顔と顔を向ひあはせてチツバツバと「雀の學校」を歌ひつゝ遊戯をなし、他の一組は聲をそろひて歌つて居ります。「この組は昨年幼稚園に入園いたしました満五歳の幼児であります」と説明申上げますと

陛下にはわざと幼児に近く玉歩を御運び遊ばされます。雀の學校から「ゆりかご」に變り、更に「鳳上げ」の律動遊戯と變化をいたします。「これが律動遊戯と申しまして、リズムを中心とした遊戯であります。今いたして居りますのは鳳上げの律動遊戯であります」と申上げますと、陛下は幼児達の一舉手一投足にも御興味ふかく御覽遊ばされます。畏れ多いことでありますか照宮様と一年位年長な男女幼児が「お月さんと遊ばう」と、お月様を手招ぎするのでありますから、陛下にはいつ迄も御覽になります。下手な遊戯でありますが、無邪氣そのものの幼児、手のよく上がらないのが、却つて御愛嬌にも思召されるか、陛下には絶えず御微笑遊ばされます有難さ。

最後に幼児の製作品陳列室に御入りになりました。先づ御覽にならましたのが幼児の生活を示す寫眞、梓のぼり、相撲、大積木遊びなどを御覽になり、次いで自由畫、はりゑを御覽あらせられました。

陸軍大將がいかめしい顔した繪や猿と蟹のはりゑなどが中々うまいと御褒め遊ばされました。是等の成績品の前に卓子掛。これは女兒のぬひとりの合作でありますことを申上げますと 陛下はわざ／＼それを御手に持上げさせられ「これはお上手ですね」と御褒め遊ばされ、その上にちらしてあります幼兒のかるた、「このカルタはこの幼稚園の幼兒がつくつた言葉で幼兒の描いた繪どこしらへたものであります」と申上げますとこれも 陛下は御手にせられ一枚／＼順々に御覽遊ばされ竹屋女官長と御笑になりました。殊に「へびはながい」といふ札の繪を御覽になつて御笑遊ばされました。生憎妙な札が出たことを誠に恐縮に存する次第であります。直に外遊びの幼兒を御覽あらせられました。實は三つの窓の硝子戸を取のぞいてありますので、春の麗かな日光を浴びて無邪氣に自由に一心に砂遊をしてゐる幼兒達の有様に 陛下はいと興ふかきものに思召されましたものであります。實は眞中の窓にて外遊びを御覽あらせられる豫定でありますので、幼兒達はかくも 陛下がうしろから御覽遊ばされて眞中の窓から御覽遊ばされた位であります。幼兒達はかくも 陛下がうしろから御覽遊ばされてゐますのも氣がつかず、男兒は一心にトンネルをつくり山をこしらへ、砂場で汽車遊びをいたしてゐります。女兒はビールの空箱でこしらへた粗末な臺所道具などを使つておまゝごと遊びをしてゐます。私は「あのビールの空箱の臺所道具は幼兒達のこしらへたものであります。粗末なものであります。

ますが女児達には大切なおもじごと道具であります。それから毎日天気がよろしければ成るべく幼児の外遊びをいたさせます。外遊びでは砂場が最も幼児の喜びますところであります。手がよどめずから砂場の遊がすみますと嚴重によく手を洗はることにいたして居ります」と申上げますと

陛下には「それは結構」といふ意味の仰せがありました。

更に 陛下は玉歩を運ばれまして砂箱のところを御覽になります。「砂箱は特に雨の日など外遊びの出来ないときに使用いたせます。この砂箱に出来て居りますのが聖橋で黒板にかいてありますのがニコライ堂であります」と申上げますと 陛下は

「これが聖橋ですか」とおほせられましてわざわざお茶の水の濠を御覽遊ばされ、聖橋にある自動車があかしいと竹屋女官長とお話になり、「これが電燈ですか」ときびがらで出来てゐるものと御指示遊ばされたのであります。幼児の觀察は中々細かな點にまで及び土堤には柵があり芝生が出来て居ります聖橋の上には人も立ち自動車も走るといつた砂と粘土との合同製作であります。聖橋と隣つて人形芝居の舞臺がありその横にいろ／＼不細工な人形が陳列してあります。この小さな舞臺の中に保姆が入りこの人形に手を入れまして人形を働かせて花咲爺でありますとか、猿蟹合戦でありますとか、いろいろのち嘸ばなしを幼児に見せるのであります。只のお話では下手でありますから興も乗りませ

んが人形を使って見せますと幼兒達は大變喜ぶのであります」と申上げますと  
陛下にはわざ／＼人形を御手に御持上げ遊ばされました。それは卵の殻で人形の顔が出来、毛糸で  
編んだも帽子をかぶつた人形であります。「これは卵の殻で顔が出来て居ります」と申上げますと「可  
愛い人形ですね」と仰せられ、更に四角な顔できびがらの鼻をつんとつき出した人形を御覽になり、  
竹屋女官長に「滑稽な顔」とあさ／＼やき遊ばされたのであります。

出口に近き卓子にはぬりゑ、粘土、箱の家などの製作品が陳列してあります。「ぬりゑ」は輪廓をこ  
のやうにかいてあります中を幼兒達がぬるものであります」と申上げますと「陛下は一枚／＼おめく  
り遊ばされて御覽遊ばされました」「これがわにだ想であります」と粘土製作について申上げますと「さ  
うですか。こちらが象ですね。中々お上手です」と御褒め遊ばされたのであります。

かくて幼稚園の御巡覽が終りましたから、吉岡校長は御先導申上げて幼稚園の廊下を御還／＼遊ばさ  
れるのであります。しかし第四の遊戯室には幼兒が尙ほ／＼遊戯をいたしてゐますので玉歩をとゞめる  
せられ、第二の室の前では室内を御覽あらせられ

「汽車が出來上つてゐますね、大變上手ですね」と御褒めあらせられ、第一の室も御覽あらせられ、  
黒板に幼兒が描いた武者繪を特に御目にとめられましたや／＼に拜せられました。

陛下が幼稚園を御巡覽遊ばされる豫定時間は十五分間でしたが、特に有難き思召で二十五分間にも及んだのであります。陛下が御座所に御着になりました頃、文部次官、局長等來賓一同が幼稚園児の手技や遊戯などを參觀せられて「成程幼稚園がお永く御覽遊ばされたのも無理がない」と感嘆せられた位であります。しかし

陛下には幼兒教育に深く御心をとめさせられることは幼稚園御巡覽を通じて拜察せられますことで單に附屬幼稚園だけの光榮ではありません。實に全國幼稚園並に托兒所の光榮であります。

陛下には照宮成子内親王、孝宮和子内親王御二方の御母性として日夜御養育遊ばされますとは申せ、かくまで幼兒教育をふかく研究遊ばされ御興味ふかく御覽遊ばされることは實に有難き極であります。

## 六、有難き賜物

皇后陛下には御座所にて御晝食御休憩遊ばされて後午後一時より本校の物理、化學、動物、植物の實驗更に裁縫、割烹の實習を五十分間御覽遊ばされ、更に運動場に於て本校附屬女學校生徒、附屬小學校兒童の體操遊戯を約三十分御覽遊ばされて後成績品陳列室をも御覽あらせられました。そして吉

岡校長を御召になつて有難き御言葉を賜はり、午後二時四十五分來賓並に職員生徒兒童一同奉送裡に御機嫌麗はしく還啓遊ばされたのであります。

この日特に校長以下全部の職員生徒兒童幼兒悉くへそれ／＼菓子を賜つたのであります。殊に幼兒が降園しない中に分配せよと有難き御注意まであつたのであります。誠に有難き

陛下の御恩召は頑是なき幼兒も深く感銘し幼兒の家庭の喜悅實に喻ふるものなき有様であります。

尚ほ當日附屬幼稚園より奉獻いたしましたのは幼兒の生活の寫眞アルバム、箱の家玩具店、幼兒の作つたカルタ、ぬりゑ帖、それに自由畫、はりゑなどの幼兒の成績品であります。

茲に謹んで御巡覽あらせられました御有様を成るべく詳細に申上げて全國幼稚園關係の方々に  
この記念すべき行啓の光榮・全國幼稚園の光榮として記念していただきたいと思ひます。